

平成 1 9 年度

瑞穂市水道事業会計決算審査意見書

瑞穂市監査委員



瑞穂監第13号  
平成20年8月25日

瑞穂市長 堀 孝正 様

瑞穂市監査委員 井上 和子

瑞穂市監査委員 小寺 徹

平成19年度瑞穂市水道事業会計決算審査意見について

地方公営企業法第30条第2項の規定により、平成20年7月14日付け瑞穂市監査委員上第63号にて審査を求められた「平成19年度瑞穂市水道事業会計決算について」を審査した結果、次のとおり意見を提出します。

## 目 次

1	審査の対象	1
2	審査の期間	1
3	審査の方法	1
4	審査の結果	1
5	事業の実績	2
	業務実績比較表	3
6	予算執行状況	4
7	経営成績	5
8	財政状態	7
9	むすび	10

### 別 表 決算審査資料

別表第1	予算・決算対照表	12
別表第2	比較損益計算書	14
別表第3	比較貸借対照表	16

- (注) 1. 文中及び各表中の金額は、円単位で表示する。  
2. 比率(%)は、原則として小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示する。  
3. 構成比率(%)は、合計が100となるよう一部調整してある。  
4. 各表中の符号の用法は、次のとおりである。  
    (0.0) 該当数値はあるが単位未満のもの  
    (－) 該当数値のないもの  
    (△) 減少又は損失

## 平成19年度瑞穂市水道事業会計決算審査意見

### 1. 審査の対象

平成19年度瑞穂市水道事業会計決算

### 2. 審査の期間

平成20年7月16日から平成20年8月25日まで

### 3. 審査の方法

審査にあたっては、決算書及び付属書類ともに諸帳簿の照合等、及び計数の分析のほか、関係職員から説明を聴取し実施した。

### 4. 審査の結果

審査に付された決算書及び財務諸表は、いずれも地方公営企業関係法令に準拠して作成されたもので、経営成績及び財政状態が適正に表示されており、計数は正確であることを認めた。

審査の概要と意見については、次に述べるとおりである。

## 5. 業務の実績

平成19年度瑞穂市水道事業会計決算は、合併後5年目の事業実績である。

本事業は、合併新市建設計画に基づき、市民生活や産業経済活動に欠くことのできない浄水の安定的供給体制の確立を目指して水源地建設、配水管網の整備を進められ、平成18年3月より瑞穂市第1次総合計画により事業が進められてきたところである。

当初予算における給水戸数の予定量13,750戸に対し実績は14,037戸で2.1%の増、年間有収水量は予定量4,274,000m<sup>3</sup>に対し4,355,559m<sup>3</sup>で1.9%の増であった。

当年度末における瑞穂市の給水人口は42,520人で、給水区域内人口50,098人に対する普及率は84.9%となっている。

一方、年間配水量は5,294,459m<sup>3</sup>で有収水量は4,355,559m<sup>3</sup>、年間配水量に対する年間有収率は82.3%で前年度比較1.0%減少となっている。なお、業務実績については次表のとおりである。

本年度の工事は、総件数25件で配水設備拡張工事では10件、事業費23,469,915円で、特に本田と十七条との配水管連結工事に着手し、昨年度に引き続き、旧町間の配水見直しが実施された。一方配水管の施工延長は897.6m、消火栓設置工事にあつては6箇所投資された。また配水設備改良工事は12件で33,300,750円の事業費で、森（一町田）配水管改良工事に10,614,450円、また、旧古橋水源地解体工事で2,211,300円等実施され、より良い供給サービスの向上を目指し、計画に沿って建設投資に努められている。

当年度の水道事業会計における経営収支の決算概況は、総収益432,710,640円に対し総費用344,061,760円で差引き88,648,880円の当年度純利益を計上し、合併後年々順調に収益をあげている。

前年度と比較すると本年度も利益が4,024,708円(4.8%)の増額となり、その大きな要因は、給水戸数482戸増及び有収水量41,975m<sup>3</sup>の増加によるものである。

なお、当年度未処分利益剰余金は89,149,719円となっている。

以下項目をおって説明する。

## 業 務 実 績 比 較 表

(平成20年3月31日現在)

項 目	単 位	平成19年度	平成18年度	前 年 度 比較増減	前年度 対比率 %
給水区域内人口	(人)	50,098	49,282	816	1.7
年度末給水人口	(人)	42,520	41,840	680	1.6
年度末給水戸数	(戸)	14,037	13,555	482	3.6
普 及 率	(%)	84.9	84.9	0.0	0.0
年 間 配 水 量	m <sup>3</sup>	5,294,459	5,178,528	115,931	2.2
年 間 有 収 水 量	m <sup>3</sup>	4,355,559	4,313,584	41,975	1.0
1ヶ月平均配水量	m <sup>3</sup>	441,205	431,544	9,661	2.2
1日平均配水量	m <sup>3</sup>	14,465	14,188	277	2.0
1ヶ月平均有収水量	m <sup>3</sup>	362,963	359,465	3,498	1.0
1日平均有収水量	m <sup>3</sup>	11,900	11,818	82	0.7
年 間 有 収 率	(%)	82.3	83.3	△ 1.0	△ 1.2

## 6. 予算執行状況

当事業年度における予算執行結果は、別表第1に示すとおりである。

### (1) 収益的収入及び支出について

収益的収入の決算額は453,813,823円で、予算現額448,505,000円に対し101.2%の増額収入で、収入の構成比率は、営業収益が448,994,950円で98.9%とその大半を占め、営業外収益は4,818,873円で1.1%である。

次に、収益的支出の決算額は363,378,384円で予算現額396,646,000円に対し91.6%の執行率で33,267,616円が不用額となっている。この主なものは、配水及び給水費の委託料10,517,440円、修繕費3,247,389円、路面復旧費7,572,200円等である。

### (2) 資本的収入及び支出について

資本的収入の決算額は93,921,500円で、予算現額99,596,000円に対して94.3%の収入で5,674,500円の減少となっている。

次に、資本的支出の決算額は122,100,791円で、予算現額142,394,000円に対して85.7%の執行率となり、20,293,209円の不用額を生じている。

また、それぞれの構成比率は、収入において出資金が50,000,000円で53.2%、負担金1,921,500円で2.1%、加入金42,000,000円で44.7%と大きく伸び、来期の営業収益増と予想されるものである。

支出における構成等は建設改良費が70,808,685円で58.0%、企業債償還金が50,819,606円で41.6%、繰延勘定が472,500円で0.4%となっている。

建設改良費の主なものは、市内配水管拡張工事10件23,469,915円、配水管改良工事8件29,426,250円、水源地等保存工事7件9,429,420円等である。

資本的収入額が資本的支出額に不足する額28,179,291円は過年度分損益勘定留保資金及び当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額で補てんしている。

## 7. 経営成績

当事業年度における損益計算書の内容は、別表第2に示すとおりである。

本年度における経営成績は、総収益432,710,640円に対し、総費用344,061,760円で、差引き88,648,880円の純利益である。これを、前年度に比較すると、収益において9,528,309円(2.3%)の増加、費用においては5,503,601円(1.6%)増加している。

なお、前年度繰越利益剰余金500,839円と当年度純利益を合わせて当年度未処分利益剰余金は89,149,719円となっている。

### (1) 収益について

営業収益は427,893,203円で、総収益の98.9%を占めており、前年度に比較すると6,449,143円(1.5%)の増加である。

収益の主体をなす給水収益は422,255,945円で、総収益の97.6%を占め、前年度に比較すると4,891,260円(1.2%)の増加となっている。

その他営業収益においては1,111,600円で前年度に比較すると48,899円の増加、また他会計負担金にあつては、4,525,658円で前年度に比較すると1,508,984円の増加となっている。

なお、水道料金収入状況は、次のとおりである。

年 度	水道料金収入額	平成15年度比
平成15年度	393,726,580円	100.0%
平成16年度	403,761,313円	102.5%
平成17年度	412,086,760円	104.7%
平成18年度	417,364,685円	106.0%
平成19年度	422,255,945円	107.2%

次に、営業外収益については4,817,437円で総収益の1.1%に当たり、前年度に比較すると3,079,166円の増加となっている。

### (2) 費用について

営業費用は295,637,574円で総費用の85.9%を占めており、前年度に比較すると6,923,610円(2.4%)の増加である。

営業費用の主な内訳並びに対前年度比は、減価償却費が159,735,989円で、1,033,378円(0.7%)の増加、配水及び給水費が126,626,790円で、4,254,518円(3.5%)の増加、

資産減耗費が2,551,952円で、1,908,071円(296.3%)の増加、総係費が1,976,027円で188,014円(8.7%)の減少、原水及び浄水費が4,746,816円で、84,343円(1.7%)減少している。

営業外費用は48,424,186円で総費用の14.1%に当たり、前年度に比較すると1,420,009円(2.8%)の減少であり、支払利息及び繰延勘定償却が減少したものである。特別損失は、昨年度同様発生していない。

次に、最近5カ年の水道事業の経済性を評定する収益率は、次表のとおりである。

区分	年度				
	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
総収益対総費用比率	123.8%	119.7%	122.1%	125.0%	125.8%
営業収益対営業費用比率	143.0%	139.2%	141.2%	146.0%	144.7%

総収益対総費用比率は、収益と費用の総体的な関連を示すもので、本年度は125.8%となり、前年度に比較すると0.8%増加している。

また、営業収益対営業費用比率は、業務活動によってもたらされた収益と、それに要した費用とを対比して業務活動の能率を示すものであり、これによって経営活動の成否が判断されるもので、本年度は144.7%であり、前年度に比較すると1.3%減少している。

m<sup>3</sup>当たりの供給単価及び給水原価にあつては下表のとおりである。

区 分	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
供給単価	97.10円	96.95円	96.62円	96.76円	96.95円
給水原価	84.17円	81.80円	80.16円	78.49円	78.99円
差 額	12.93円	15.15円	16.46円	18.27円	17.96円

※ 供給単価＝給水収益÷年間総有収水量

給水原価＝(経常費用－受託工事)÷年間総有収水量

## 8. 財政状態

当事業年度における貸借対照表の内容は、別表第3に示すとおりである。

### (1) 資産について

当年度における資産総額は6,766,675,928円で、前年度の6,726,497,491円に比較して40,178,437円(0.6%)の増加となっている。

資産を大別すると、固定資産が5,490,649,729円で全資産の81.1%を占め、前年度の5,574,771,970円と比較すると84,122,241円(1.5%)の減少であり、流動資産は1,255,282,799円で全資産の18.6%で、前年度の1,122,583,021円に比較すると132,699,778円(11.8%)増加している。

固定資産の減少の内訳は、構築物41,235,309円(1.0%)、機械及び装置45,561,456円(6.0%)、建物6,311,588円(1.6%)、工具器具及び備品360,200円(19.3%)、車輛運搬具は171,395円(48.8%)となっている。

また、流動資産の増加は、現金預金137,333,389円(13.2%)、貯蔵品716,406円(23.3%)で、減少は、未収金5,350,017円(6.8%)となっている。

繰延勘定は開発費として8,399,100円(28.8%)の減少となった。

### (2) 負債について

固定負債は前年度と同額となっている。流動負債の未払金は39,452,419円で、前年度の139,669,756円に比較して100,217,337円(71.8%)減少している。

### (3) 資本金について

資本の総額は3,985,214,034円で、前年度の3,986,033,640円に比較して819,606円の微減である。

この内訳は、自己資本金が50,000,000円(1.9%)増加し、借入資本金で企業債の償還により50,819,606円(3.9%)減少したものである。

また、剰余金において、資本剰余金が、受贈財産評価額、他会計負担金、その他資本剰余金等の増加により前年度に比較して141,215,380円(5.5%)増加し、利益剰余金では、建設改良積立金80,000,000円(20.0%)及び減債積立金11,000,000円(12.6%)が増加したことにより、当年度未処分利益剰余金は2,351,120円(2.6%)減少した。

#### (4) 構成比率及び財務比率について

当年度における水道事業会計の財務状態を分析すると、次のとおりである。

##### ア 構成比率

区分	年度				
	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
固定資産構成比率	80.9%	82.4%	83.0%	82.9%	81.1%
自己資本構成比率	72.9%	74.5%	75.3%	78.2%	80.6%

固定資産構成比率は、総資産に対する固定資産の占める割合を示すもので、この比率が高いほど資産が固定化していることになる。これを前年度に比較すると1.8%減少している。

また、自己資本構成比率は、総資本の中で自己資本が占める割合であり、この比率が大きいほど自己資本が資産として固定化することにより経営が安定化することになる。これを前年度に比較すると2.4%増加している。

##### イ 財務比率

区分	年度				
	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
固定比率	111.0%	110.6%	110.2%	105.9%	100.7%
流動比率	506.4%	469.6%	382.3%	740.1%	2,439.7%

固定比率は、自己資本に対する固定資産の比率であって、本来は、固定資産は自己資本の範囲内であるのが望ましい姿ではあるが、施設・設備の先行投資を余儀なくされる当事業にあっては長期かつ低率な借入金又は企業債の運用によって安全に固定資産調達資金となすことができ、固定資産が自己資本の範囲を超えたからといって、一概に財政的に不安定な経営とはいえない。

当事業の場合は、統合簡易水道・第5期拡張工事等の先行投資が主な原因となっているものである。

次に、流動比率は、流動負債に対する流動資産の比率であって、短期債務に必ずべき流動資産の割合を示すものである。したがって、この率が高いほど短期債務の支払

いに十分な流動資産を有していることになり、当事業の場合2,439.7%と高い率を示している。

#### ウ 酸性試験比率（当座比率）

年度 区分	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
酸性試験比率	500.3%	463.4%	381.3%	738.1%	2,432.3%

流動資産のうち、現金預金及び現金化する未収金と短期債務の流動負債との割合を示すもので、100%以上が理想比率とされている。

#### エ 現金預金比率

現金預金比率は、流動負債に対する現金預金の割合を示す比率で平成19年度は、2,290.0%と非常に高い率を示している。

## 9. むすび

以上が、平成19年度瑞穂市水道事業会計決算書の審査概要である。

本事業年度の経営収支は、総収益432,710,640円に対し、総費用344,061,760円で差引き88,648,880円の純利益を生じた。前年度繰越と合わせ当年度未処分利益剰余金は89,149,719円となり、剰余金処分として減債積立金40,000,000円と建設改良積立金48,000,000円をそれぞれ積み立てるものである。本年度の当年度純利益は、18年度に比べ4,024,708円の増額となっている。

業務面においては、加入者促進の努力の結果、前年度に比較して給水戸数482戸(3.6%)、給水人口は680人(1.6%)増加している。また、1日平均配水量にあっては2.0%の増加となり、収益に対する1日平均有収水量も0.7%増加している。

給水人口の増加にともない、年間配水量が伸びているが、収益につながる年間有収水量の伸びと比較をすると有収水量が少なくなっており、配水量と有収水量との比率(有収率)を見ると16年度は86.7%、17年度は85.5%、18年度は83.3%、本年度は82.3%と年々この率が低下しつつある。当事業の配水管については、年数も経過しており、老朽化も進んでいると予想される。今後は、石綿管の布設替も含め、配水管の耐用年数を考えた布設替計画を作成し、順次工事を進める等、豊富な水資源に恵まれているとはいえ、この有収率向上対策を検討すべきである。

収益率、構成比率、財務比率等各項目ごとに計数を対比させ、分析・検討を加えたが、その数値は概して良好であり、当事業の安全性が認められた。

また、今後においても、良質かつ清浄で安全な水を安定的に供給するために、配水管路網及び施設の適切な維持管理に努められるよう望むものである。

水道料金の未収金にあっては、早期収納整理による徴収率の向上を図り、不納欠損を最小限にとどめるよう、なお一層の向上に努められたい。

経営面においては、引き続き安定した財政の健全性が維持されており、良好な事業運営と認められたが、預金については瑞穂市水道事業計画に基づいて、安全かつ有利な資金運用を検討されたい。なお、毎年一般会計より出資される出資金についても、瑞穂市水道事業計画とあわせて有効に活用していただくよう検討を要するものである。

今後とも、厳しい財源の現状を踏まえ、一層の自助努力により、独立採算制の経営の原則に立脚した事業運営を推進するためにも、一層の企業努力を期待するものである。

# 決 算 審 査 資 料

- 別表第 1            平成 1 9 年度  
瑞穂市水道事業会計予算・決算対照表
- 別表第 2            平成 1 9 年度・平成 1 8 年度  
瑞穂市水道事業会計比較損益計算書
- 別表第 3            平成 1 9 年度・平成 1 8 年度  
瑞穂市水道事業会計比較貸借対照表

## 別表第1

## 平成19年度 瑞穂市水道

## 収益的収入

区分 科目	予算現額 円	構成比 %	決算額 円	構成比 %	予算現額に 比べ決算額の 増減 円	決算額の 予算現額に 対する比率%
水道事業収益	448,505,000	100.0	453,813,823	100.0	5,308,823	101.2
営業収益	447,771,000	99.8	448,994,950	98.9	1,223,950	100.3
営業外収益	734,000	0.2	4,818,873	1.1	4,084,873	656.5
合計	448,505,000	100.0	453,813,823	100.0	5,308,823	101.2

## 資本的収入

区分 科目	予算現額 円	構成比 %	決算額 円	構成比 %	予算現額に 比べ決算額の 増減 円	決算額の 予算現額に 対する比率%
資本的収入	99,596,000	100.0	93,921,500	100.0	△ 5,674,500	94.3
出資金	50,000,000	50.2	50,000,000	53.2	0	100.0
負担金	3,449,000	3.5	1,921,500	2.1	△ 1,527,500	55.7
加入金	46,147,000	46.3	42,000,000	44.7	△ 4,147,000	91.0
合計	99,596,000	100.0	93,921,500	100.0	△ 5,674,500	94.3

# 事業会計予算・決算対照表

## 収益的支出

区分 科目	予算現額 円	構成比 %	決算額 円	構成比 %	不用額 円	決算額の 予算現額に 対する比率%
水道事業費用	396,646,000	100.0	363,378,384	100.0	33,267,616	91.6
営業費用	326,284,000	82.3	299,640,880	82.5	26,643,120	91.8
営業外費用	70,362,000	17.7	63,737,504	17.5	6,624,496	90.6
予備費	0	-	0	-	0	-
合計	396,646,000	100.0	363,378,384	100.0	33,267,616	91.6

## 資本的支出

区分 科目	予算現額 円	構成比 %	決算額 円	構成比 %	不用額 円	決算額の 予算現額に 対する比率%
資本的支出	142,394,000	100.0	122,100,791	100.0	20,293,209	85.7
建設改良費	90,785,000	63.8	70,808,685	58.0	19,976,315	78.0
企業債償還金	50,821,000	35.7	50,819,606	41.6	1,394	100.0
繰延勘定	788,000	0.5	472,500	0.4	315,500	60.0
合計	142,394,000	100.0	122,100,791	100.0	20,293,209	85.7

## 別表第2

平成19年度 瑞穂市水道事  
平成18年度

## 費用の部

区分 勘定科目	平成19年度		平成18年度		比較増減	前年度 対比率
	金額	構成比	金額	構成比		
	円	%	円	%	円	%
営業費用	295,637,574	85.9	288,713,964	85.3	6,923,610	2.4
原水及び浄水費	4,746,816	1.4	4,831,159	1.4	△ 84,343	△ 1.7
配水及び給水費	126,626,790	36.8	122,372,272	36.2	4,254,518	3.5
総係費	1,976,027	0.6	2,164,041	0.6	△ 188,014	△ 8.7
減価償却費	159,735,989	46.4	158,702,611	46.9	1,033,378	0.7
資産減耗費	2,551,952	0.7	643,881	0.2	1,908,071	296.3
その他営業費用	0	-	0	-	0	-
営業外費用	48,424,186	14.1	49,844,195	14.7	△ 1,420,009	△ 2.8
支払利息	39,113,108	11.4	40,681,767	12.0	△ 1,568,659	△ 3.9
繰延勘定償却	8,849,100	2.6	8,958,700	2.6	△ 109,600	△ 1.2
雑支出	461,978	0.1	203,728	0.1	258,250	126.8
特別損失	0	-	0	-	0	-
過年度損益修正損	0	-	0	-	0	-
計	344,061,760	100.0	338,558,159	100.0	5,503,601	1.6
当年度純利益	88,648,880	-	84,624,172	-	4,024,708	4.8
前年度繰越利益剰余金	500,839	-	6,876,667	-	△ 6,375,828	△ 92.7
当年度未処分利益剰余金	89,149,719	-	91,500,839	-	△ 2,351,120	△ 2.6

# 業 会 計 比 較 損 益 計 算 書

## 収 益 の 部

区 分 勘 定 科 目	平成19年度		平成18年度		比較増減	前年度 対比率
	金 額	構成比	金 額	構成比		
	円	%	円	%	円	%
営 業 収 益	427,893,203	98.9	421,444,060	99.6	6,449,143	1.5
給 水 収 益	422,255,945	97.6	417,364,685	98.6	4,891,260	1.2
そ の 他 営 業 収 益	1,111,600	0.3	1,062,701	0.3	48,899	4.6
他 会 計 負 担 金	4,525,658	1.0	3,016,674	0.7	1,508,984	50.0
営 業 外 収 益	4,817,437	1.1	1,738,271	0.4	3,079,166	177.1
受 取 利 息 及 び 配 当 金	4,028,129	0.9	1,046,931	0.2	2,981,198	284.8
雑 収 益	789,308	0.2	691,340	0.2	97,968	14.2
特 別 利 益						
過 年 度 損 益 修 正 益						
計	432,710,640	100.0	423,182,331	100.0	9,528,309	2.3
当 年 度 純 損 失	-	-	-	-	-	-
合 計	432,710,640	-	423,182,331	-	9,528,309	2.3

## 別表第3

平成19年度  
平成18年度

瑞穂市水道事業

## 資産の部

区分 勘定科目	平成19年度		平成18年度		比較増減 円	前年度 対比率 %	勘定 種別
	金額	構成比	金額	構成比			
	円	%	円	%			
固定資産	5,490,649,729	81.1	5,574,771,970	82.9	△ 84,122,241	△ 1.5	固定
有形固定資産	5,485,465,153	81.0	5,569,456,301	82.8	△ 83,991,148	△ 1.5	引
土地	269,788,695	4.0	269,788,695	4.0	0	0.0	
立木	1,115,000	0.0	1,115,000	0.0	0	0.0	流重
建物	381,720,609	5.6	388,032,197	5.8	△ 6,311,588	△ 1.6	未
構築物	4,106,177,378	60.7	4,147,412,687	61.7	△ 41,235,309	△ 1.0	そ
機械及び装置	715,325,851	10.6	760,887,307	11.3	△ 45,561,456	△ 6.0	資
車輛運搬具	179,620	0.0	351,015	0.0	△ 171,395	△ 48.8	自
工具器具及び備品	1,509,200	0.0	1,869,400	0.0	△ 360,200	△ 19.3	借
建設仮勘定	9,648,800	0.1	0	-	9,648,800	-	
無形固定資産	5,184,576	0.1	5,315,669	0.1	△ 131,093	△ 2.5	剰
施設利用権	4,956,176	0.1	5,087,269	0.1	△ 131,093	△ 2.6	資
電話加入権	228,400	0.0	228,400	0.0	0	0.0	
流動資産	1,255,282,799	18.6	1,122,583,021	16.7	132,699,778	11.8	
現金預金	1,178,240,239	17.4	1,040,906,850	15.5	137,333,389	13.2	
未収金	73,250,141	1.1	78,600,158	1.2	△ 5,350,017	△ 6.8	
貯蔵品	3,792,419	0.1	3,076,013	0.0	716,406	23.3	
その他流動資産	0	-	0	-	0	-	利
繰延勘定	20,743,400	0.3	29,142,500	0.4	△ 8,399,100	△ 28.8	
開発費	20,743,400	0.3	29,142,500	0.4	△ 8,399,100	△ 28.8	
合計	6,766,675,928	100.0	6,726,497,491	100.0	40,178,437	0.6	

# 会計比較貸借対照表

## 負債・資本の部

区 分 定 科 目	平成19年度		平成18年度		比較増減	前年度 対比率
	金 額	構成比	金 額	構成比		
	円	%	円	%	円	%
負債	17,500,000	0.3	17,500,000	0.3	0	0.0
当 金	17,500,000	0.3	17,500,000	0.3	0	0.0
修繕引当金	17,500,000	0.3	17,500,000	0.3	0	0.0
流動負債	51,452,419	0.8	151,669,756	2.3	△ 100,217,337	△ 66.1
払 金	39,452,419	0.6	139,669,756	2.1	△ 100,217,337	△ 71.8
その他流動負債	12,000,000	0.2	12,000,000	0.2	0	0.0
資本	3,985,214,034	58.9	3,986,033,640	59.2	△ 819,606	0.0
己 資 本 金	2,741,883,276	40.5	2,691,883,276	40.0	50,000,000	1.9
入 資 本 金	1,243,330,758	18.4	1,294,150,364	19.2	△ 50,819,606	△ 3.9
企 業 債	1,243,330,758	18.4	1,294,150,364	19.2	△ 50,819,606	△ 3.9
余 金	2,712,509,475	40.0	2,571,294,095	38.2	141,215,380	5.5
本 剰 余 金	2,045,759,756	30.2	1,993,193,256	29.6	52,566,500	2.6
受贈財産評価額	278,838,190	4.1	268,193,190	4.0	10,645,000	4.0
国 県 補 助 金	295,108,070	4.4	295,108,070	4.4	0	0.0
工 事 負 担 金	640,808,626	9.5	640,808,626	9.5	0	0.0
他 会 計 負 担 金	535,653,536	7.9	533,732,036	7.9	1,921,500	0.4
そ の 他 資 本 剰 余 金	295,351,334	4.4	255,351,334	3.8	40,000,000	15.7
益 剰 余 金	666,749,719	9.8	578,100,839	8.6	88,648,880	15.3
減 債 積 立 金	98,100,000	1.4	87,100,000	1.3	11,000,000	12.6
建 設 改 良 積 立 金	479,500,000	7.1	399,500,000	5.9	80,000,000	20.0
当年度未処分利益剰余金	89,149,719	1.3	91,500,839	1.4	△ 2,351,120	△ 2.6
合 計	6,766,675,928	100.0	6,726,497,491	100.0	40,178,437	0.6